

学部名	保健医療福祉学部	学科名	看護学科
-----	----------	-----	------

看護学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	医学・医療の進歩にともない、看護においてもあらゆる健康レベルにある人々の健康問題を分析し、改善するための計画立案・実践・評価が求められている。そのために必要な基礎的知識と科学的思考に基づいた応用能力を修得している。また、グローバル化が進む中で国際的な視点を持ち、様々な国の医療や看護について理解することができる。
DP2	思考・判断	健康問題を持つ人々のニーズを把握し、それに対して適切な対応をするための科学的思考力や問題解決能力を持ち、看護を計画的に実践し、指導する能力を身に付けている。
DP3	技術・行動	看護活動において求められる環境整備やヒューマンケアに関わる様々な技術と、その基礎となる理論とを結びつけて実践行動に活かすことができる。保健・医療チームの一員として協働するために多職種との連携や地域志向性について理解し、チーム医療実践におけるキーパーソンとしての役割を担うことができる。
DP4	態度	専門職者として、高い倫理観と責任感とともに、生涯にわたって研鑽し続ける基本的姿勢と能力を身に付けている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ	2	1	この科目の到達目標として、受講生は、本学の所在地である備中高梁という場所が地域文化圏「吉備の国」としてどのような文化的・歴史的特色があるのかを十分に理解し、さらに、世界の文化や社会の多様性を学ぶことによって国際人となるための基礎を身に付ける。 毎回異なる講師によるオムニバス形式によって実施される。備中高梁(吉備の国)の自然環境、歴史、精神風土についての基礎知識を学ぶ。さらに、日本と世界とのつながりについてグローバル化の意味とその影響に注目しつつ、世界各地の社会・文化事情の解説を通じて、ローカルな日常世界とグローバルな国際社会との関係を考え、多文化共生の基本的な意義と課題について理解する。	◎			
		地域学概論	2	1	地域の諸問題については、高梁市の各部署より講師を招き高梁市の現状と今後の問題点を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。 また、地域でボランティアを行っている学生より体験談を聞き今後の地域社会への貢献について考える。	○	◎		
		地域貢献ボランティア	2	2	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアをおこなう。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。ボランティア活動は、ボランティア活動予定表(5月～1月末まで)から活動時間合計が20時間以上になるよう選択し、活動をおこなう。その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グループに分かれ発表を行う。			◎	○
	キャリア教育科目	キャリア開発Ⅰ	2	1	卒業後の社会人としての人生に向け、4年間の大学生生活でいかにキャリアを積み上げるかを考え、卒業までの過ごし方を計画(自己のキャリアデザイン)し、実行を始める。 社会が求める人間像(自主性、責任感、協調性、教養、分別等)を学び、自己分析力を身につけ、卒業までの各節目に常に自己分析をし、その時点で何を身につけるべきか、何をすべきかを考えることができるようになる。				◎
		キャリア開発Ⅱ	2	3	自らに適した進路選択を具体的にを行い、就活力を身につけることを目標とする。合同授業は、外部講師等による就活に向けた実践講座等である。各学科の学科単位の授業は、それぞれの進路に対する具体的な指導等である。またキャリアポートフォリオを就活に活かせるようになることを目指す。		○	◎	
	情報教育科目	情報処理Ⅰ	2	1	情報のデジタル化、コンピュータ開発の歴史、コンピューティングの要素と機構、ハードウェア、ソフトウェア、文書作成、プレゼンテーション、ネットワーク、情報検索、コンピュータによる問題解決、セキュリティ、情報モラル、情報システムの利用と社会問題などについて学習し理解を深める。	○		○	
		情報処理Ⅱ	2	1	情報処理Ⅰで学んだ基礎知識をもとにより高度なコンピューティングの要素と機構、ハードウェア、ソフトウェア、文書作成、プレゼンテーション、ネットワーク、情報検索、コンピュータによる問題解決、セキュリティ、情報モラル、情報システムの利用と活用方法を学び社会で活用できる能力を養う。	○		○	
	言語教育科目	英語Ⅰ	2	1	英文法の復習と語彙力の強化する。英文法は、英語での自己表現に最小限必要な文法事項を中心に、練習問題を解いたり、課題英作文や自由英作文に取り組んだりすることで、中学・高校とで習った文法の復習をしていく。また、学生同士のペアワークとして、コミュニケーション練習なども行う。語彙については、大学生の日常生活に結びついた身近な語を多く取り上げ英語力を養う。	△			
		英語Ⅱ	2	1	主な内容は英文法の復習と語彙力の強化である。英文法は、英語での自己表現に最小限必要な文法事項を中心に、練習問題を解いたり、課題英作文や自由英作文に取り組んだりすることで、中学・高校とで習った文法の復習をしていく。また、学生同士のペアワークとして、コミュニケーション練習なども行う。語彙については、大学生の日常生活に結びついた身近な語を多く取り上げる。	△			
		英語Ⅲ	2	2	この授業はテキストの予習をしっかりやれば高校以上の難易度の長い文章が読めるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標にしています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらって自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。	△			

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	英語Ⅳ	2	2	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。 教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力をつけてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。	△			
		フランス語Ⅰ	2	1	テーマ:「こんにちは」「さようなら」などの基本的な挨拶をフランス語で行う。到達目標は、アルファベットを確実に暗誦でき、アトランダムに示された文字を正確に発音できる。発音されたアルファベットを書き取る。数字を1から20まで暗唱する。自分の名前や国籍を言う。覚えた歌を歌う。等の授業中に示された課題をクリアすること。	△			
		フランス語Ⅱ	2	1	前期に引き続き、フランス語の歌を使って、綴り字の読み方、発音、基本的な語句や表現、文法などを学習する。また、自己紹介に必要な表現を学習する。数字を1から100まで言えるようにする。ビンゴゲームで数字を聞き取る練習をする。等の授業中に示された課題をクリアする毎に得点する。	△			
		フランス語Ⅲ	2	2	フランス語の歌を使って、綴り字の読み方、発音、基本的な語句や表現、文法などを学習する。歌詞の発音や意味に加えて、その歌や歌詞の背景や歴史についても知ってもらいたい。分からないことをフランス語で質問する。自己紹介をする。数字を1から100まで暗唱する。覚えた歌を歌う。等の授業中に示された課題をクリアする毎に得点する。	△			
		フランス語Ⅳ	2	2	フランス語の歌を使って、綴り字の読み方、発音、基本的な語句や表現、文法などを学習する。歌詞の発音や意味に加えて、その歌や歌詞の背景や歴史についても知ってもらいたい。分からないことをフランス語で質問する。自己紹介をする。数字を1から100まで暗唱する。覚えた歌を歌う。等の授業中に示された課題をクリアする毎に得点する。	△			
		ドイツ語Ⅰ	2	1	ドイツ語の単語と文を正しく発音するためのルールを知り、動詞や名詞を中心にした基礎的な文法を学習する。そのことによって「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話に必要な語彙と文を、読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。	△			
		ドイツ語Ⅱ	2	1	日常的な会話表現に触れながら、ドイツ語の基礎的な文法事項についての学習と理解をさらに深める。そのことによって「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、平易な日常会話での様々な応答表現が読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な一歩となっている。	△			
		ドイツ語Ⅲ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	△			
		ドイツ語Ⅳ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	△			
		中国語Ⅰ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅰでは、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターすることを旨とする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく文型などを習得する。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	△			
		中国語Ⅱ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	△			
		中国語Ⅲ	2	2	中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前篇)する。中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。	△			
		中国語Ⅳ	2	2	会話を中心とした日常レベルの中国語を発音したり聞き取ったりできるようになる。	△			

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	2	1~4	大学生、あるいは社会人として必要とされるであろう日本語の基本的な運用能力の獲得を、この授業の主要なテーマとする。日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学習することにより、確実な日本語基礎力を身につけることが出来る。また、この授業の中では日本人のための「日本語検定」を紹介しており、受験に対しての指導も合わせて行う予定である。	◎			
		文学への招待	2	1~4	本講義では、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことを目的とする。さらに、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすものである。	○			
		美術の見方	2	1~4	美術作品の見方について考え、一人ひとりが美術の見方を身につけることを目的とする。美術作品の「見方」といっても2つの考え方がある。1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。ここでは、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行い、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになる。	△			
		音楽の楽しみ	2	1~4	テーマは「音楽とは何か」。人類は、なぜ音楽を創り出し、そして継承してきた。現在音楽は、生活の様々な場面まで深く浸透している。しかし、冒頭の問いに直ちに的確に答えることはできない。本講座では、人と音楽との関係、音楽そのものについて考察し、冒頭の問いに対して自分なりに回答できるようになる。		△		
		生涯スポーツ論	2	1~4	スポーツ・運動の基本的内容を理解し、実生活で活用できることを到達目標とする。	○		△	
		生涯スポーツ実習	1	1~4	生涯スポーツ実習を通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわって、たくさんプレーすることによって高めることができる。			◎	
	世界認識・自己理解	哲学	2	1~4	哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの、極めて重要な知的伝統である。講義では、この知的伝統をたどりつつ、世界と自分について、自分の頭で考えることを目指す。	○			
		宗教学	2	1~4	世界の歴史の中でどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知ること。	○			
		倫理学	2	1~4	我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位に自分固有のよき人生への指針を与えることが目標である。	◎			
		心理学	2	1~4	心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。	◎			
		多文化理解	2	1~4	テーマ：本講では、文化人類学的視点に基づいて伝統的社会から近代的産業社会までの様々な人間集団の文化(生活様式、社会制度・習慣など)を比較・考察する。そうすることにより、「文化の多様性」を通して人間とは何かをより広い角度から理解する。 到達目標：様々な社会や民族に見られる異なった、独自の生活様式や思考様式、すなわち「文化」を価値判断抜きに比較、考察、理解することができる。またそうすることにより、広い視野と寛容性を身につけることができる。	○			
	社会と制度	日本国憲法	2	1~4	<テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。 「人権」について理解を深める。 <到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。		○		○
		民法	2	1~4	民法は、皆さんが社会生活をする上でのトラブルを解決するルールを定めていますので、民法を学習することにより、社会生活に役立つ実用的な知識が身に付きます。また、公務員試験や資格試験などの多くに試験科目として採用されていますので、これらの試験を目指す人にとっては、必修の科目といえます。したがって、この授業では、次のステップとしての公務員試験や資格試験の勉強に円滑に移行できることも念頭に置いて、民法の基礎を理解し記憶することを目標とします。	△			
		経済学	2	1~4	経済学を学ぶもっとも重要な理由は、自分が暮らしている世界を理解するのに役立つということである。日常生活で目にするさまざまな経済的現象に関する分析的思考を修得する。とりわけ我々の生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には市場における消費者や企業といった経済主体の経済活動の背後論理を理解し、価格メカニズム、豊かさの意味合いと国民所得、経済成長および経済政策などと実生活とのかかわり合いについて理解を深めることができる。	○			

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	社会と制度	社会学	2	1~4	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①社会学に関する、基礎的な考え方・見方を身につける。 ②人の生活や一生について、社会学的な視点から理解を深める。 ③身の回りの出来事を、社会学的な視点から分析できるようにする。	○			
		人権と政治	2	1~4	●授業の到達目標及びテーマ:世界レベルで問題となっている、様々な「人権」について、標準的な知識を身につけることを目標とする。				△
		社会と統計	2	1~4	●統計学の基本的な考え方を事例を見ながら習得すること。 ●実際に応用分析ができるようになることをめざす。	△			
	自然と数理	環境科学	2	1~4	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、世界規模で流行が懸念される感染症などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。	△			
		物理学	2	1~4	物理の基礎。簡単な計算ができること。計算を通じて考えられること。物理的な見方ができるようになること。	○			
		生物学	2	1~4	[テーマ]:最近の生物学関係の進歩はめざましいものがある。それらを少しでも理解できるよう、生物について、人間について、分子、細胞、組織、構造、進化など様々なレベルで基本的理解を深め、医学、環境問題などの生物学的現象についての理解力・思考力を身につける。受講することにより、新たな知識を丸暗記するのではなく、過去の知識と関連づけながら理解し思考する習慣を少しでも身につける。 [到達目標]:人間は生物であることを再認識する。人間は様々な生物の世界がなければ生きていけないことを理解する。生物は生きていくために栄養が必要であることを理解する。生物は進化してきたことを理解する。進化とはどのような現象でどのように起こるのかを理解する。生物学は科学の一つであること、科学とはどのような学問であるかを理解する。原核生物と真核生物の違いが分かる。ウイルスと、生物との違い、細菌との違い、が分かる。細菌と真核単細胞生物とが区別できる。病原体には、ウイルス、細菌、原生動物などがあることがわかる。人間の免疫とはどのようなものであるかおおよそわかる。真核多細胞生物は動物と植物と菌類であることが分かる。有性生殖と無性生殖の違いが分かる。多細胞動物の体が、体細胞と生殖細胞からできていることを理解する。遺伝子と染色体との関係が理解できる。遺伝子を構成する物質がDNAであることが分かる。同じ両親から生まれる兄弟は、約70兆以上の遺伝子の組み合わせから生まれることを理解する。双生児の1卵性と2卵性の違いを理解する。	○			
		化学	2	1~4	本講義では基礎的な化学知識の学習に重点をおき、また日用品、生活に必要な薬品化学や界面化学分野の項目も取り上げ、将来の職業にも役立つ知識の修得を目指したい。	◎			
		人類生態学	2	1~4	人間社会を理解する上で必要となる諸概念や、さまざまなレベルの社会分析の枠組みを理解する。特に、「社会システム」「文化」「社会組織」「エスニシティ」「地域」「コミュニティ」など、通常何気なく目や耳にしたり、使用している用語を改めて社会的に問い直してみる。基礎力を養った上で、現代日本社会の特性を、具体的な社会問題や社会現象に則して探求していく。	◎			
		統計学	2	1~4	統計学の基礎概念を、事例を通じて習得し、将来の応用をめざす。	△			
		数学	2	1~4	医療系の学習を進める上で将来必要となる数学的知識の習得	△			
	総合C群			1~4	入学した学科で学ぶ専門領域以外に様々な分野や世界、価値観があることを知り、また理解することを目的としている。社会人となったとき幅広い知識を身につけるために他領域について「個々をやや深く」学ぶ。		○		○

学部名	保健医療福祉学部	学科名	看護学科
-----	----------	-----	------

看護学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	医学・医療の進歩にともない、看護においてもあらゆる健康レベルにある人々の健康問題を分析し、改善するための計画立案・実践・評価が求められている。そのために必要な基礎的知識と科学的思考に基づいた応用能力を修得している。また、グローバル化が進む中で国際的な視点を持ち、様々な国の医療や看護について理解することができる。
DP2	思考・判断	健康問題を持つ人々のニーズを把握し、それに対して適切な対応をするための科学的思考力や問題解決能力を持ち、看護を計画的に実践し、指導する能力を身に付けている。
DP3	技術・行動	看護活動において求められる環境整備やヒューマンケアに関わる様々な技術と、その基礎となる理論とを結びつけて実践行動に活かすことができる。保健・医療チームの一員として協働するために多職種との連携や地域志向性について理解し、チーム医療実践におけるキーパーソンとしての役割を担うことができる。
DP4	態度	専門職者として、高い倫理観と責任感とともに、生涯にわたって研鑽し続ける基本的姿勢と能力を身に付けている。

※学科のDP達成のために、特に重要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	1	1	春	テーマ:人体解剖学 解剖学は正常な人体の形態と構造を研究する学問であり、大きく分類すると解剖学、組織学、形態学などである。看護学生の理解と学習意欲を高めるため視聴覚機器を利用しながら講義をすすめていく。本講義の目標は、分子細胞学、組織学、発生学、骨格系、筋系、脈管系について理解を深める。	◎			
	解剖学Ⅱ	1	1	秋	テーマ:人体解剖学 人体は一個の受精卵から発生し、発生分化を経て複雑な構造体を形成している。解剖学はその人体の構造と各器官の形態及び機能を分子細胞のレベルから個体のレベルまで一体として理解し、合せて各専門科目を学ぶための基礎とする。到達目標は、消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系について理解を深める。	◎			
	生理学Ⅰ	1	1	春	テーマ:生体の機能を学ぶ。人体生理学は、身体各臓器の働きを知るとともに、身体全体としての統合的な調節と適応の機序を明らかにする学問である。臨床医学の分野で関係の深い血液循環、呼吸、栄養の消化と吸収について講義する。講義は解剖学と平行して進行するので、適宜解剖学的事項とあわせ病態との関連性を理解することが到達目標である。	◎			
	生理学Ⅱ	1	1	秋	テーマ:生体の機能を学ぶ。生理学Ⅰに引き続いて、臨床医学の分野で関係の深い代謝、排泄、内分泌について講義していく。到達目標は、血液循環・体液の調節・内臓機能の調節・筋収縮・情報の受容と処理・生体防御について理解する。	◎			
	生化学	2	1	秋	「生体物質の基本的構造と機能及び物質の変化とそれに起因する諸現象について」をテーマとする。また、生命の根源についてDNAの複製・転写・翻訳などの分子生物レベルで理解し、人体を構成する成分、生命活動の成り立ち、仕組み等に関して習得することができる。	◎	○		
	栄養学	2	1	秋	健康と栄養との関わりについて理解し、食生活のあり方について考えることをテーマとする。到達目標として ①栄養素の体内での働きについて理解する。 ②健康の保持・増進のために、何を、どれだけ、どのように食べればよいのかを理解する。 ③疾病と栄養の関係について学び、疾病の予防・治療・増悪化防止のための栄養食療法について理解する。	◎	○		
	薬理学	2	2	春	「薬物の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について」をテーマとする。薬物に対する生体の反応についての基礎的知識を習得することができる。すまわち、薬の作用と有害作用(副作用)、循環器系に作用する薬、抗菌剤の抗菌スペクトルと有害作用、抗癌剤、抗うつ薬・抗精神病薬等の精神科領域の薬等の作用機序、有害作用、臨床応用等について習得することができる。	◎	◎	◎	
	病理学	2	2	春	病理学は基礎医学の総まとめであり臨床医学に入門するために必要な学問である。これまで学習した内容を総合して、病気の原因、発生の仕組み、経過、病気が辿る最終的な結末(転帰)といった病気の本態に関する基礎を学ぶ。医療に携わる者にとって、どんな職種であれ必要不可欠な学問である。本講義では病理学的な考え方を身につけ、臨床医学をさらに理解できることを到達目標とする。	◎	○		
	病態生理学Ⅰ	2	2	春	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。	◎	○		
	病態生理学Ⅱ	2	2		疾病の原因と疾病による形態的、機能的変化について学習する。病態生理Ⅰ～Ⅳでは臓器別、疾患別にその病因・病態・検査・治療法・予防法について教授していく。Ⅱの内容は循環器疾患・脳神経系疾患である。	◎	○		
	病態生理学Ⅲ	2	2	秋	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。	◎	○		
	病態生理学Ⅳ	1	2	秋	将来看護師として臨床に出た時、どのような現場で働くことになっても廃用症候群の予防法等の基礎知識は必要とされる。より広い視野を持った看護師になるため、リハビリテーションに関わる基礎知識を身につけることを目標とする。	◎	○		
	微生物学Ⅰ	1	1	春	「各種感染症における病原微生物及び感染予防に関する知識について」をテーマとする。到達目標は、広範な微生物の知識を理解し、さらに、各種感染症における病原微生物及び感染予防に関する知識、滅菌・消毒、化学療法、微生物学的検査、新興感染症、感染症法の分類と疾患等の専門的知識を習得する。	◎	○		
	微生物学Ⅱ	1	1	秋	「各種感染症における病原微生物及び感染予防に関する知識について」をテーマとする。広範な微生物の知識を理解し、さらに、各種感染症における病原微生物及び感染予防に関する知識、滅菌・消毒、化学療法、微生物学的検査、新興感染症、感染症法の分類と疾患等の専門的知識を習得することができる。	◎	○		
疫学	2	2	春	疫学は、公衆衛生分野で発展してきた、現在でも公衆衛生活動を支える重要な基礎科学である。そのため、保健師には必須であり、保健師国家試験の頻出分野でもあるが、近年は臨床疫学の発展もめざましく、看護師にも疫学的考え方を身につけることが求められている。この授業では、疫学的な考え方を身につけ、疫学の初歩的論文を読みこなせるようになることが到達目標である。	○	◎	○	△	
公衆衛生学Ⅰ	1	1	春	公衆衛生学は医学の中では社会医学に分類され、基礎医学とも臨床医学とも異なっているが、別の領域というよりは、基礎医学や臨床医学を利用する「応用医学」の側面を持っている。また、臨床医学とは異なって病気の治療よりは予防や健康増進を目的として、個人よりは集団を対象とし、しかもその多くは健康人である。そのための「Public Health Mind」を身につけてもらうことが目標である。Public Health Mindは、保健師や養護教諭にはもちろん必須であるが、すべての医療関係者が身につけておくべきものであり、看護師国家試験にも必須である。	△	◎	○	△	

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
専門基礎科目	公衆衛生学Ⅱ	1	1	秋	公衆衛生学Ⅰに続き、病気の予防や健康増進を目的として、環境と健康との関わりを中心に、授業を進めていく。 我々が生活する環境には、様々な要因があり、それらが健康に対して良い影響を与えている面も、悪い影響を与えている面もある。同じ要因でも、受ける影響には個人差もある。 この科目では、環境要因と健康との関係について、理解を深めるとともに、悪い影響を取り除いて人々の健康をよりよくする手法などについて学習する。 そのことを通じて、“Public Health Mind”を身につけてもらうことが目標である。	△	◎	○	△
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1	2	春	テーマ:「保健師として知っておかなければならない保健医療福祉行政の基礎的な知識」 Ⅰ. 行政の仕組みと変遷・地域保健関係の制度 到達目標:保健師活動の実践に際して理解しておかねばならない保健医療福祉行政上の根拠法を学習し、保健師国家試験に出題される問題に対応できるレベルを到達目標とする	○			
	保健統計学	2	2	秋	疫学の初歩は1・2年次に学習済みだが、その再整理とより高度で実践的な応用を身につけてもらうことが目標である。保健師国家試験の頻出分野でもあり、国試合格は最低限の到達目標である。	○	◎	△	○
	保健医療福祉概論	2	1	春	テーマ:学生は、対人援助職としての基本的な心得を学ぶことができる。 1. 学習者は、保健医療福祉従事者として必要な資質について理解し、今後の学生生活を通じていかにそれを育てていくべきかを把握できる。 2. 看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士などの仕事内容を理解できる。 3. 多職種連携のありかたについて理解を深めることができる。			◎	◎
基礎看護学	看護学概論	2	1	春	「看護とは何か」について考える素地を学ぶことを目標とする。看護学の基本概念である人間、環境、健康、看護の概要をとらえ展開する。最終的には、自己の「看護観」を表現できることをねらいとする。 看護の本質を学び、看護専門職に必要な視点や思考を養うことを目的とする。看護の歴史的背景をふまえて看護の基本的な概念と理論を学ぶ。また、看護の対象のとらえ方、看護を展開するために必要な法律と倫理についても学習し、社会が求める看護の役割と機能について理解することを到達目標とする。	△	◎	○	◎
	看護方法論	1	1	秋	看護実践の基本的能力として求められるヒューマンケアの基盤的能力として、幅広い視野から人間と人間生活を理解し、確かな倫理観を持って行動できる態度と看護の計画的な展開能力を習得することを目的とする。看護の計画的な展開、つまり看護過程においては、生活者である人間に看護援助していくために思考することを学習し、看護の対象に有効だと考えられる援助を具体的に考えることができることを到達目標とする。	○	◎	○	△
	生活援助論Ⅰ	1	1	春	テーマ:人の健康問題を解決に導くために、看護の基本技術を適確に実施する能力が必要である。また、各基本技術を看護行為として実践するためには、対象者への深い理解と社会的責任に立脚した判断が含まれることを理解し、個別の患者に対して清潔の援助に関する基本技術を正しく適応するために必要な内容を学び理解する。 到達目標:清潔の援助について、対象者の安全・安楽を考慮した援助を学内演習で実施できる。	○	○	◎	△
	生活援助論Ⅱ	1	1	秋	テーマ:人の健康問題を解決に導くために、看護の基本技術を適確に実施する能力が必要である。また、各基本技術を看護行為として実践するためには、対象者への深い理解と社会的責任に立脚した判断が必要となることを理解し、感染防止の援助、食事の援助、排泄の援助について学ぶ。 到達目標:食事の援助、排泄の援助、感染防止の技術について、対象者の安全・安楽を考えて適切な援助とは何かアセスメントできる。食事・排泄の援助、感染防止の技術を学内演習で実施できる。	◎	○	○	△
	生活援助論Ⅲ	1	1	春	テーマ:患者をとりまく外部環境をいつも安全で快適な状態に整えておくことは、すべての看護実践の基本である。人は本来自分の力で自分なりの環境・姿勢と体位・移動などを適切に調整していく能力を有しているが、病気や障害や加齢や幼弱のため、あるいは治療上の制約などのため、自力では不可能な場合が考えられる。そのような際に看護が全面的に責任を負うため、関係する援助技術を習得する必要がある。 到達目標: * 環境を多角的にとらえ、患者の安全・安楽への配慮を具体的な行為として実践できる能力を養う。自立度に応じた病室・病床の整備・ベッドメイキングができる。 * ボディメカニクスの基本原則を理解し、対象者・看護者双方が安楽・安全な体位で、効果的・効率的にケアを実践する基本的方法を習得する。安楽な体位と保持する技術ができる。体位と身体に及ぼす影響を理解する * 援助方法の選択と実施ができる。 体位変換、立位と歩行の援助ができる。車椅子・ストレッチャーによる移送・移動ができる	◎	○	◎	△
	生活援助論Ⅳ	1	1	秋	人間の健康問題を解決に導くためには、看護の基本技術を適確に実施する能力が必要である。各基本技術を看護行為として実践するためには、対象者への深い理解と社会的責任に立脚した判断が含まれる。看護技術を支える態度や行為の構成要素である、知識と判断、実施と評価、利用者への説明、完全安楽の確保、プライバシーの保護、指示の確認、報告・記録、個別性の対応、家族相談などをふまえて個別の患者に対して基本技術を正しく適応するために必要な内容を習得することが重要である。ここでは、対象者に適切な援助を提供できる基礎看護技術の習得を到達目標とする。	◎	○	○	△
	生活援助論Ⅴ	1	2	春	人間の健康問題を解決に導くためには、看護の基本技術を適確に実施する能力が必要である。ここでは、専門職としての看護行為を実践する為に必要な基礎的理論と、その具体的な援助方法について理解し、基礎看護実習において実践できる能力の習得を到達目標とする。	◎	○	△	△
	生活援助論Ⅵ	1	2	秋	人間の健康問題を解決に導くためには、看護の基本技術を適確に実施する能力が必要である。ここでは、専門職としての看護行為を実践する為に必要な基礎的理論と、その具体的な援助方法について理解し、基礎看護実習において実践できる能力の習得を到達目標とする。	○	◎	○	△
	臨床看護総論	1	1	秋	テーマ:さまざまな健康段階にある対象の理解と治療・処置および症状に対する看護の理解 到達目標:対象者＝人＝生活者であることを意識し、健康障害をもつあらゆる対象とその家族への理解を深め、健康段階に応じた適切な看護を実践するための基本的な考え方や知識・技術が理解できる。	◎	○	△	○
	基礎看護学実習	3	2	秋	看護学概論、看護方法論、生活援助論などで学んだ知識・技術を実際に活用して、看護の対象である患者の全体像を捕らえ、その人に応じた基本的な生活援助が出来ることを目的とする。 1週目の目標 1) 患者の生活環境を知る。 2) 健康障害を持って入院している患者を知る。 3) 患者の1日の流れの中での看護活動を知る。 2・3週目の目標 受け持ち患者の看護に看護過程を適用し、各段階を展開できる能力を養い、対象の個別的な状況を考察しながら看護を実践できる。	◎	◎	◎	◎
成人看護学	成人看護学概論	1	2	春	成人期にある対象の特徴の理解とともに、この期の健康問題の特徴と疾病構造について理解できる。成人に対する看護アプローチの基本となる理論の概要と、健康レベルに対応した看護の基本を学習し、成人のアセスメントの枠組みと技法および看護過程のすすめ方が理解できる。	◎	◎	◎	◎
	成人看護学Ⅰ	1	2	春	成人各期に起こりうる疾患の理解とそのアプローチの基本を教授する。本科目では、循環器・呼吸器疾患の特徴、病態生理、治療、心理状況および社会的変化を理解し、生活改善を含む種々のセルフケア、援助方法について理解することを目標とする。	◎	◎	◎	◎

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
成人看護学	成人看護学Ⅱ	1	2	秋	成人各期に起こりうる疾患の理解とそのアプローチの基本を教授する。本科目では、循環器・消化器・呼吸器疾患における外科的療法、麻酔法・救命救急について講義する。	◎	◎		
	成人看護学Ⅲ	1	3	春	急性期、特に周手術期にある成人の特徴、病態生理、機能障害、治療、心理状況および社会的変化を理解し、必要な基本的援助技術の習得を目標とする。さらに、がんの診断期から終末期において、治療や基本的な看護活動を学習し、がん患者を全人的にアセスメントできることを目標とする。	◎	◎	◎	◎
	成人看護学Ⅳ	1	2	春	成人各期に起こりうる疾患の理解とそのアプローチの基本を教授する。本科目では、消化器/内分泌代謝/感覚器疾患における患者の看護を取り上げる。看護の特徴として、生活改善を含む種々のセルフケア、援助方法を理解することを目標とする。	◎	◎	◎	◎
	成人看護学Ⅴ	1	3	春	成人各期に起こりうる疾患の理解とそのアプローチの基本を教授する。本科目においては、腎・泌尿器/糖尿病/運動器/血液疾患の特徴、病態生理、治療、心理状況および社会的変化を理解し、生活改善を含む種々のセルフケア、援助方法について理解することを目標とする。	◎	◎	◎	◎
	成人看護学実習Ⅰ	3	3	秋	急性期、特に周手術期にある成人期の患者の看護過程を通して、基礎的な看護実践能力と根拠に基づいた看護実践ができる能力を養う。また、対人関係を構築する能力を高めるとともに、看護実践の中で、これまで学んだ理論と知識、技術を統合する。 具体的には、1)成人期にある患者を総合的に理解し、健康レベルに応じた看護を提供するための知識・技術・態度を修得する。2)受け持ち患者の看護実践を通して、看護の理念や本質について考えを深め、より良い看護や将来の課題について考えることができる、を主な目標とする。	◎	◎	◎	◎
	成人看護学実習Ⅱ	3	3	秋	健康障害をもつ慢性期にある成人期の患者の看護過程を通して、基礎的な看護実践能力と根拠に基づいた看護実践ができる能力を養う。また、対人関係を構築する能力を高めるとともに、看護実践の中で、これまで学んだ理論と知識、技術を統合する。 具体的には、1)成人期にある患者を総合的に理解し、健康レベルに応じた看護を提供するための知識・技術・態度を修得する。2)受け持ち患者の看護実践を通して、看護の理念や本質について考えを深め、より良い看護や将来の課題について考えることができる、を主な目標とする。	◎	◎	◎	◎
老年看護学	老年看護学概論	1	2	春	1. 人間の発達段階における老年期の理解と、老化の特徴を理解する。 2. 老年期の、身体的、心理的、社会的、霊的な特徴を理解する。 3. 老年期の健康と健康障害について理解する。 4. 老年期を支える看護について探求し、看護職の役割を考える。 を到達目標とする。	◎	◎	△	○
	老年看護学Ⅰ	1	2	春	1. 高齢者の特徴と、加齢による変化が日常生活に及ぼす影響を踏まえた、ポジティブな老年観を、育むことができる。 2. 高齢者の保健・医療・福祉における看護職の役割や課題を理解するとともに、高齢者が健康な生活を送るための社会生活について理解する。 を到達目標とする。	◎	◎	○	○
	老年看護学Ⅱ	2	3	春	高齢者の持つ力を洞察し、広い視野から高齢者を理解でき、個人的な状況に合った、高齢者の援助について学ぶことを目的としている。 1. 高齢者の健康障害が加齢によって引き起こされることや、その経過の特徴について理解できる。 2. 高齢者に特有な症候とその看護、高齢者に多い疾患と看護について理解できる。 3. 障害を持つ高齢者が日常生活に対応できるよう、高齢者とその家族に応じた看護活動について理解できる。 を到達目標とする。	◎	◎	◎	◎
	老年看護学実習Ⅰ	2	3	秋	医療機関における実践において、高齢者特有の健康障害について理解を深め、老年看護のアセスメントと看護実践について理解できる。また、チーム保健医療や社会福祉資源の活用、家族との連携について学び、チームの一員としての看護の役割について考えることができる。	◎	◎	◎	◎
	老年看護学実習Ⅱ	2	3	秋	高齢者福祉施設における実践において、看護過程の展開を通して高齢者を全人的に捉え、生活歴や価値観を考慮した看護過程の展開ができる。 高齢者との関わりを通し、介護保険施設での看護職の役割を認識し、他職種との連携の重要性を学ぶ。	◎	◎	◎	◎
	小児看護学	小児看護学概論	1	2	春	テーマ:小児看護の対象となる子どもと小児看護の専門性の理解 到達目標:子どもは、絶えず成長・発達を続けていること、権利を有する主体的存在であることを認識し、子どもに対する見方、考え方を深め、小児看護学の意義を理解できる。	◎	○	△
小児看護学Ⅰ	1	2	秋	テーマ:子どもの成長発達・疾患の病態と特徴の理解 小児期の各期(新生児、乳児、学童、思春期)においてみられる疾患について、原因、病態生理、症状、経過、治療および予防の観点を学び、疾患をもつ小児特徴と治療および療養生活の看護援助、療育の方法と家族支援の方法について理解する。	○	◎	○	◎	
小児看護学Ⅱ	1	3	春	テーマ:子どもの成長発達に関わる病気と病態を考える 小児期の各期(新生児、乳児、学童、思春期)においてみられる疾患について、原因、病態生理、症状、経過、治療および予防の観点を学び、疾患をもつ小児特徴と治療および療養生活の看護援助、療育の方法と家族支援の方法について理解する。	○	◎	○	◎	
小児看護学Ⅲ	1	3	春	テーマ:健康障害を持つ子どもと家族の看護 到達目標:健康障害をもつ子どもの身体的、精神的、社会的特徴と家族への影響、健康障害に応じた看護について理解できる。また、子どものアセスメントに必要な知識や技術を習得する。	◎	○	○	○	
小児看護学実習	2	3	秋	テーマ:子どもの発達段階・健康段階を考慮した看護実践 到達目標:保育園や医療機関の中にいる子どもを通して、子どもの発達各期の特徴や健康段階を理解し、その子どもに応じた個別的な看護ができる。さらに小児を取り巻く保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割について理解できる。	◎	◎	◎	◎	
母性看護学	母性看護学概論	1	2	春	1. 母性看護の基盤となる概念を理解し、母性看護のあり方について理解を深める。 2. 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状を知り、母性看護の役割を理解する。 3. 女性のライフステージ各期における看護及びプロダクティブヘルスケアについて理解する。	○	○	○	◎
	母性看護学Ⅰ	1	3	春	1. 妊娠・分娩・新生児・産褥期にある対象の特性を理解する。 2. 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常の病態について理解する。 3. 妊娠・分娩・新生児・産褥期の正常・異常のアセスメントを理解する。 4. 不妊および不妊治療を受けている患者の看護を理解する。	◎	○	○	○
	母性看護学Ⅱ	2	3	春	1. 妊婦の身体的特性、心理的・社会的特性をふまえた援助を理解する。 2. 産婦の分娩の経過に伴う身体的変化、心理・社会的変化をふまえた援助を理解する。 3. 新生児の生理的变化をふまえ、健康な発達への援助を理解する。 4. 褥婦の身体的特性、心理・社会的特性をふまえた援助を理解する。 5. ハイリスクの妊婦・産婦・新生児・褥婦や異常時の援助を理解する。	◎	◎	◎	○

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
母性看護学	母性看護学実習	2	3	秋	1. 目的 女性の各ライフステージの身体的・心理的・社会的特徴を理解し、周産期にある母性、新生児および家族への適切な看護が実践できる能力を養う。 2. 目標 1) 妊娠・分娩・産褥各期の生理的な経過を身体的・心理的・社会的側面から理解し、適切な援助ができる。 2) 新生児の生理的变化と特徴を理解し、新生児に必要な援助ができる。 3) 母性看護を通して生命の尊厳について考え、母性観・父性観を深める。 4) 母子保健医療福祉チームにおける看護者の役割、多職種との連携について理解できる。	◎	◎	◎	◎
精神看護学	精神看護学概論	1	2	春	テーマ:こころの健康についての理解を深め、こころの看護に必要な基本的知識を学習する。 到達目標 1. 精神と身体、家族、集団、社会のダイナミクスについて理解できる。 2. 精神保健医療福祉の歴史を理解できる。 3. 精神保健医療福祉の法律と制度について理解できる。 4. 心を病むことについて幅広く理解し、精神看護を理解できる。	◎	○	△	○
	精神看護学Ⅰ	1	2	春	テーマ:こころの健康についての理解を深め、こころの看護に必要な基本的知識を学習する。 到達目標: 1. 心の健康について、心のはたらきについて理解できる。 2. 心のしくみ、心の発達、心の危機について理解できる。 3. 精神と身体、家族、集団、社会のダイナミクスについて理解できる。 4. 心を病むことについて幅広く理解し、精神看護を理解できる。	◎	◎	△	◎
	精神看護学Ⅱ	1	2	秋	テーマ:精神医学の理解を深め、看護に必要な態度を学ぶ。 到達目標:看護師として必要な精神障害についての下記の知識を、学生が身につける。 1. 精神医学の基礎的事項・総論的事項を理解する。 2. 代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解する。 3. 精神障害特性を理解し、リハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学ぶ。 4. 精神医学の歴史的な背景を理解する。 5. 精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解する。	◎	◎	○	◎
	精神看護学Ⅲ	1	3	春	テーマ:精神疾患や精神障害をもつ人を対象にした援助関係や精神看護の方法について、また精神障害者の地域生活支援について、精神保健・医療・福祉の動向を踏まえながら看護の役割について学習する。 到達目標: 1. 自己理解を深める方法や人間関係を深める方法を理解できる。 2. セルフケア理論を活用しながらアセスメント方法を理解できる。 3. 代表的な疾患や精神状態についての治療や看護を理解できる。 4. 地域で生活していくための精神保健医療福祉の連携、看護の役割について理解できる。	◎	◎	○	◎
	精神看護学実習	2	3	秋	テーマ:精神に障害をもつ人とのかかわりを通して患者-看護者関係について考え、また幅広く対象を理解することを学習する。 到達目標: 1. 精神に障害をもつ人とのかかわりを通して、生物・心理・社会的に幅広く心を病む人への理解ができる。 2. 精神に障害をもつ人とのかかわりを振り返りながら、患者-看護者関係について考えることができる。 3. 精神に障害をもつ人の日常生活の自立に向けての援助ができる。 4. 精神に障害をもつ人が望む、その人らしい自立した地域生活を支えるために、必要となる援助と課題について考えることができる。 5. 実施した看護を的確に言語化し、論理的・体系的に記述することができる。	◎	◎	◎	◎
統合看護Ⅰ	看護管理論	1	4	春	質の高い看護を提供するための看護管理の方法について理解を深める。病院・施設などにおける看護組織、看護組織を運営するために必要な組織論、リーダーシップ論、管理理論、チーム医療論、リスクマネジメントなどについて学び、よりよい看護を提供するための管理方法と今日的課題を理解する。	○	○		○
	家族看護学	1	4	春	テーマ:「家族看護の基礎理論」 到達目標:家族とは、システムとしての特徴を有しながら発達している1単位の生命体である。このような1単位の家族を看護の対象として理解するために、家族看護学にはさまざまな理論と技法がある。ここでは、家族を一つのユニットとして捉えてアセスメントするための基礎理論を、実際の家族事例について活用できるレベルを到達目標とする	◎	◎	○	△
	統合看護演習Ⅰ	1	4	春	統合看護演習Ⅰでは地域における介護予防の講義や演習をとおして、自助・互助・共助・公助の仕組みを個人や地域社会の関係から捉え、知識と看護実践を統合する力を身につけることをめざしている。	◎	◎	◎	◎
	統合実習	2	4	秋	基礎分野での学びを基盤に、専門分野で習得した理論的な知識や技術、看護の対象との関わりを軸に、広い視野に立って看護を統合し、実践する能力を充実させる。そのために、成人・老年・小児・精神・母性・在宅・地域といった各領域のいずれかで看護を実践し、看護チームの一員としてメンバーシップ・リーダーシップの理解および保健医療チームにおける看護専門職としての役割や他職種との協働のあり方の理解を深めさせる。	◎	◎	◎	◎
	在宅看護学概論	1	4	春	在宅で生活する疾病や障害を持つ人々とその家族の特性を理解し、療養生活を支えるための看護活動の位置づけと役割の重要性を理解できる。	◎	○	○	◎
	在宅看護援助論Ⅰ	2	4	春	在宅で生活する疾病や障害を持つ人々およびその家族に対して、生活を支える看護活動や社会資源の活用方法について理解できる。	◎	◎	○	◎
	在宅看護援助論Ⅱ	2	4	春	在宅看護の実際を知り、在宅における日常生活援助・医療処置援助の技術を理解・修得できる。在宅看護の特性をふまえた看護過程の展開方法が理解でき、在宅ケアシステムにおける看護職の役割について理解できる。	◎	○	◎	◎
	在宅看護学実習	2	4	秋	訪問看護ステーションにおいて、地域で生活する疾病や障害を持つ人々とその家族に対する在宅看護活動の実際を学び、在宅ケアシステムにおける看護職の役割について理解を深めることができる。在宅看護活動を通して療養者とその家族の健康状態および生活環境を総合的に捉えることができる。	◎	◎	◎	◎
	地域看護学概論	1	2	春	地域看護活動の場である行政・産業・学校・在宅の4領域の特性を理解し地域看護学の理念や目的を理解する。さらに、健康問題について個人・家族・集団・組織・地域を対象に展開する看護活動の方法や特性を理解することで、保健師としての役割が認識できるレベルを到達目標とする。	◎	○	○	◎
看護研究Ⅰ	1	3	春	看護に必要な研究の基本を理解し、研究計画を立てることができる。研究分野として、老年看護学に関する研究、対人関係援助に関する研究に取り組むことで卒業研究をすすめるための基本的な理解ができる。	○	◎			
統合看護Ⅱ	チーム医療	1	4	春	医療体制の歴史的流れと医療関係職種および福祉関係職種間の連携など基礎理論の重要性を学習し、チーム医療の一員としての看護職の役割を理解する。さらに日々の看護ケアへ他職種と共有した方針を反映させ、ケアの評価を医療チームの方針へ反映させていく仕組みを事例検討を通して理解を深める。	○	◎		

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
統合看護Ⅱ	看護政策論	1	4	春	保健医療福祉看護政策への関心を高め、政策決定過程への参加活動の必要性の認識を高める。労働環境・労働条件の改善、医療事故対策、看護職員の配置基準などの看護優先課題が対象者への安心安全な看護を提供するために必要であることが認識できる。またその実現のために看護政策決定への参加活動の必要性が認識できる。	○	◎		
	国際看護学	1	4	春	国際社会で現実に行き起きている問題を多く取り上げ、国際協力・国際看護とは何かについて考えさせる。国際看護の基礎知識について文献調査、興味あるテーマについて議論することにより、国際看護についてとらえることができるようにしていく。	○	◎	△	○
	災害医療	1	4	春	災害医療は、大規模災害(地震、火災、津波など)等により、対応する側の医療能力を上回るほど多数の医療対象者が発生した時に行われる医療である。災害の及ぼす生命や健康生活への被害を最小限にとどめるために、災害現場での看護活動と災害後の中長期に渡る被災者の生活や健康問題への支援、心のケアについて学ばせる。また、海外での災害医療援助活動も視野に入れ、効果的な医療活動のあり方について考えていく。	○	◎	△	○
	救命救急	1	4	春	救命救急医療において、突然の発症や受傷のために心肺停止状態の対象者に対し、1分1秒でも早く心肺蘇生法を開始することが、救命後の回復に影響を与える。そこで、「救命の連鎖」の重要性和、救命処置に関する知識を技術を学ぶ。到達目標は「心停止の予防」「早期認識と通報」「1次救命処置」「二次救命処置と心肺再開後の集中治療」の4つからなる「救命の連鎖」の重要性を理解する。心肺蘇生法と除細動を学外演習にて実施できる。	◎	◎	◎	◎
	看護教育	1	4	春	看護教育および看護の教育的機能へのアプローチを、具体的な事例検討、ロールプレイを通してシミュレーションし、対象やニーズに応じた実践を行なうための基本的なスキルを獲得する。	○			
	統合看護演習Ⅱ	2	4	春	看護の各領域での学びを関連づけて考える力(統合する力)を育て、看護の対象者を尊厳ある地域生活者として捉えることができ、対象者の生活背景を視野に入れた看護の提供ができる看護師の育成をめざす。	○	○	◎	◎
	医療安全	1	4	春	医療現場に存在する安全の阻害因子は、対象自身の問題と医療者の側の問題、生活環境などの「場」のなかにひそむ問題の3つに分けられる。看護職として、ケアの対象者だけでなく、ケアを行うスタッフの安全を守るために、このような安全を脅かす要因を認識し、それを排除する方策を考え、実践できる知識と技術を教授していく。安全に関する技術を身につけることは、医療の信頼を得ること、ケアの質を保証することにつながる。	○	○	◎	◎
	看護研究Ⅱ	1	4	秋	看護研究Ⅰで学習したことを基礎に、看護研究の方法(研究計画から論文作成ならびに研究成果発表までの一連の過程)を実践的に学ぶ。	○	◎		
保健師科目	健康管理論	1	3	春	1年次「公衆衛生学」に引き続いて、健康管理を効果的に行うための、基礎理論と実践知識を身につけてもらうことにより、効果的な保健活動の進め方やその評価ができるようになることが目標である。もちろん保健師国家試験合格は最低限の到達目標である。	◎		◎	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	1	2	秋	<テーマと到達目標> 保健師として知っておかなければならない保健医療福祉関係法規の基本的な知識 ～ 行政の仕組みと変遷・公衆衛生看護関係の法制度 ～ 到達目標:保健師活動を実践するために、保健医療福祉行政において求められる根拠法を学習し、法に則った保健師活動が出来るレベルを到達目標とする。	◎			
	公衆衛生看護学概論	1	3	春	公衆衛生看護学の概念、目的、役割・機能及び地域の生活問題や健康問題を個人、家族、集団組織、地域の問題として捉え、公衆衛生的に解決・改善していく看護活動の特性を理解できる。地域を基盤とし予防的視点で健康課題にアプローチする公衆衛生看護の機能と役割、活動が理解できるレベルを到達目標とする。	◎	○	○	◎
	公衆衛生看護学Ⅰ	2	3	春	地域で生活するすべての健康レベルの人々の健康問題解決のために必要な、公衆衛生看護に関する基礎的知識と支援技術を習得し、個人や集団それぞれの特徴を踏まえた支援ができる。	◎			
	公衆衛生看護学Ⅱ	2	4	春	母子、成人、高齢者等、各対象における地域看護活動の基盤となる制度と理論、技術や手法の理解をテーマとし、地域看護活動の基盤となる法的根拠や制度と活動を展開するための理論を理解し、ライフサイクル別、健康レベル別各期における健康問題を解決するための地域看護の基礎的技術や手法を習得し、個人や集団の特性に応じた支援ができる。	○	◎	○	◎
	公衆衛生看護管理論	2	4	春	保健師に求められる地域看護管理の力量形成を目指す。具体的には、人々の健康を社会的条件の中で捉え、健康問題を予測する力を養い、解決方法を理解する。さらに、住民の自律的な健康の保持増進活動を支援し、社会資源の評価・調整・開発する視点を養うことを到達目標とする。	◎	◎	◎	◎
	産業衛生学	2	4	春	事業所において、労働衛生管理の中心になる「衛生管理者」は国家資格であるが、保健師の資格があれば、資格試験免除で、上位資格としての第1種衛生管理者免許が与えられることになっている。したがって、この科目では、衛生管理者に求められる能力が身に付くことを目標とする。また、保健師国家試験合格は最低限の到達目標である。	○			
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	4	秋	個人と家族への継続指導により、個別性のある生活や価値観を理解させ、公衆衛生看護活動の実践について学ばせる。また、地域の支援システムを理解させ、保健医療福祉サービスを個人・家族が有効に活用しエンパワメントする援助方法を探究する保健師の役割を理解させる。具体的には市町村・保健所を中心とし、個人・家族・集団・地域を対象とした生活支援活動の一連のプロセスや計画の企画・評価、健康危機管理体制等について学ばせる。	◎	◎	◎	◎
公衆衛生看護学実習Ⅱ	1	4	秋	実習前に、実習保健所や市町村における地区診断等により地域特性を理解する。また、地域における集団を対象とした健康教育実習を行い、個人・家族をエンパワメントする援助方法を学ぶ。地域実習後は、グループワーク演習により保健医療福祉計画の企画・評価、健康問題の解決に向けた政策形成過程についての学びを深める。	◎	◎	◎	◎	
教職科目	看護教育法Ⅰ	2	3	春	1. 看護教育制度及び高等学校看護科教育の目標、教育課程について理解し、看護教育の方法と学習指導理論について説明できる。 2. 学習指導要領の内容を理解し学習における指導上の留意点、生徒の実態や学力に応じた学習指導案の作成ができる。 3. 高等学校看護科教員として資質の能力形成を目指す為に、教科指導に必要な知識と技術を習得し、より教育効果が上がる授業方法について研究する。 4. 看護教育の授業を評価する方法について理解し、模擬授業を実践し客観的に評価し改善ができる。	○	◎	◎	◎
	看護教育法Ⅱ	2	4	春	1. 高等学校看護科の教育目標および教育課程を踏まえた効果的な授業展開と評価についての演習を実施することができる。 2. 看護教育における「実習」の学習形態の特徴について説明できる。 3. 講義と実習の一体的な指導に係る授業の設計方法及び評価について説明できる。 4. 臨地実習における指導計画・指導方法について説明できる。 5. 実習校と連絡をとり、実習校で行う科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業を実践し、客観的に評価し授業設計を改善することができる。 6. 看護教育の授業研究の必要性について説明できる。	○	◎	◎	◎

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
教職科目	教育原論	2	1	秋	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける 【到達目標】 1. 教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる	◎	◎		○
	教職論	2	1	春	教職についての基礎的な知識(教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等)について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。	◎	◎		○
	教育行政学	2	2	春	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標	◎	◎		○
	教育心理学	2	2	春	1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ 2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける 3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける	○	○		○
	特別支援教育	1	2	春	特別支援教育に携わる上で必要となる理念・制度を理解し、障害の理解と指導方法に関する知識が備わっていることを目標とし、特別支援教育では、特別支援学校や、小学校、中学校、高等学校等において、様々な障害のある生徒ひとりひとりのニーズに応じた適切な指導と支援が求められている。本科目では、特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の理解と指導内容・方法等の基本的事項について解説する。	○	○		○
	教育課程論	1	2	春	●テーマ (1)教育課程とは何か、国の基準、教育課程の編成及び実施、教育課程編成の手順と評価、教育課程編成の歴史などについて考察します。 (2)学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について考察します。 ●到達目標 (1)教育課程とは何か、教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識について習得したことを、他人にも十分に理解されるよう、自分の言葉で表現し、まとめることができる。 (2)学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について考察し、他人にも十分に理解されるよう、自分の言葉で表現し、まとめることができる。	◎	◎		○
	道徳教育の理論と方法	2	3	春	●テーマ 道徳教育の理論と実践例を考察し、道徳教育のねらいなどを踏まえて一単位時間の学習指導案を作成し、教育実習や学校現場において、魅力ある授業実践ができるよう、実践的指導力を身に付けること。 ●到達目標 1点目は、学習指導要領解説「道徳編」を熟読し、道徳教育の目標、道徳教育とは何か、道徳の時間の本質は何か、などを明らかにし、道徳教育の基本的事項について理解し、それを具体例を用いて自分の言葉で説明することができること。 2点目は、「道徳の時間」の指導を、年間指導計画等から資料とねらいなどを分析し、道徳教育のねらいを踏まえた学習指導案(基本型)を作成し、子どもにとって魅力ある授業実践(模擬授業)ができるようになること。 3点目は、本授業を通して、学生自らが、道徳教育とは何か、自らの道徳性を高めるためにはどうすべきであるかなど、他者との対話や自らに対する問いかけを通して、考えを深め、自らの道徳的実践力を培っていくことができること。	◎	◎		○
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	秋	特別活動は、集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行う活動である。集団や社会の一員として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を持ちながら自主的、実践的な育てることを目標としている。また、総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、総合的な学習を行い、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。	◎	◎		○
	教育の方法と技術	2	3	春	教授学習過程の最適化 教授学習過程における動機付けや場作りの重要性に気付く。 教育におけるメディアリテラシーの育成の重要性に気付く、メディアの特性についての理解を深める。学習ソフト・教育メディアなどに興味や関心を持つとともに、その使用について意欲を持つ。プレゼンテーションについて興味と関心を持ち、積極的な発表意欲を持つことができる。	◎	○	◎	○
	生徒・進路指導論	2	3	春	激動する社会のなかで、教育現場の実態をふまえて生徒の個性を正しく育てるために、必要な教師としての資質を身につけさせたいと考えています。	◎	◎	○	○
	教育相談の基礎	2	1	秋	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する	○	○	○	○
	教育実習指導	1	3	春	高等学校(看護)の教育実習に必要な学校教育における基本的な事項と態度を学ぶ。看護科の高等学校生徒の発達段階に応じた学習指導ができるようになることを目指す。 高等学校の看護教育の歴史を踏まえて意義を理解し、法的根拠に沿った教育活動を理解し、学習指導要領に準拠した専門教科の学習指導と指導上の留意点が理解できる。	○	◎	◎	◎
教育実習	2	4	春	看護科のある高等学校を実習校とし、教育の実践について直接的な体験を通して、理論と実践の統合をめざしていく。具体的には、2週間の教育実習において、1. 授業見学実習を行う、2. 学習指導案を作成し、指導教員から指導を受ける、3. 指導案をもとに授業を行う、4. 授業の後で指導教員から評価を受ける、5. 学級担任として生徒指導を行う、6. 課外活動、クラブ活動に参加し、生徒の実態を理解する、7. 実習終了後、大学において体験発表を行う。	○	◎	◎	◎	
教職実践演習(高校)	2	4	秋	学生の既習学習が、教員として必要な能力として有機的な統合・形成に繋がっているかについて、これまでの学習を踏まえて確認する。 また、学校現場の教育課題や課題解決のために必要な教育活動について講義や演習で学び、教員として必要な資質能力を身につけることができる。	○	◎	◎	◎	

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
教職科目	学校保健学	2	2	秋	学校保健の概略を理解するとともに、学校保健を実践する上で必要となる各論的知識を学習する。 (1) 法的根拠に基づいた学校保健活動が理解できる (2) 学校保健における養護教諭の役割が理解できる (3) 児童生徒の健康問題及び健康課題を理解することができる	◎	○	○	◎
	養護学概論	2	3	春	養護教諭の職務と保健室の機能、役割を理解し、児童生徒の健康課題の解決方法と技術について学習する。 (1) 「養護」の意味について考えることができる (2) 養護教諭の実践の実際が理解できる (3) 健康問題の解決の方法が理解できる (4) 保健教育の目的・進め方が理解できる	◎	○	○	◎
	健康相談活動論	2	4	春	養護教諭の職務の一つである健康相談活動の理論と実践について講義と演習を行い、学校における健康相談活動の理念と実践を学ぶ。 (1) 養護教諭が行う健康相談活動の意義と法的根拠を理解する (2) 健康相談活動について、基本的知識・技術・態度を理解する (3) 養護教諭の職務と専門性、及び保健室の機能との関連づけができる (4) 看護学を基盤とした身体的・心理的・社会的なアセスメントができる	○	◎	◎	○
	養護実習指導	1	4	春～秋	養護実習の事前・事後指導を行う。養護実習の目的・目標・内容について明確に意識して臨む。保健指導・救急処置・健康診断等の養護教諭の職務の基本的事項についてグループワークや演習を中心に理解を深める。また各自で保健学習の指導案、保健だよりを作成して発表し、実習準備を行う。実習後は、実習成果を報告会にて発表し学びの確認と整理をする。	○	◎	◎	◎
	養護実習	4	4	秋	養護教諭免許取得のための教科・科目で学んだ教育理論を教育現場で実践し、養護教諭の職務の理解を深め、教育職員としての自覚と責任について学ぶ。	○	◎	◎	◎
	教職実践演習 (養護教諭)	2	4	秋	これまでの学修が、養護教諭として必要な資質と能力として有機的に統合され形成することを目標とする。 また、児童生徒の健康課題や解決のために必要な養護教諭の教育活動について学び、養護教諭としての必要な資質と能力を身につけることができる。	○	◎	◎	◎